

令和4年所信

昨年も、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの規制を強いられる一年でありました。

そのような中、新型コロナワクチン接種をはじめ、市民の皆様の安心、安全を確保し、雇用や事業を守るため、別府市PCR検査センターの開設、家賃応援金の創設、べっぷ帰ってきたエール券の発行など、計3回にわたり、予算総額約13億円の別府市独自の緊急対策を実施いたしました。

コロナ禍でも明るい話題もたくさんありました。

明豊高等学校野球部が第93回選抜高等学校野球大会準優勝という輝かしい成績を収められ、多くの市民に元気と感動を与えてくれました。

東京2020オリンピックでは、九州トップを切って市内で聖火リレーが行なわれ、また、別府市出身の上野優佳選手がフェンシング女子フルーレの個人戦と団体戦で見事6位に入賞されました。

パラリンピックでは、多様性と新たな共生社会を願う聖火ビジット「別府おもいやりの火」を実施しました。

両大会を通じて、スポーツの素晴らしさを改めて実感していただけたことと思います。

そして、ラグビー15人制日本代表の県内初の別府合宿や、ラグビートップリーグ参戦チームの合宿も行われ、ラグビーワールドカップのレガシーをさらに深めることができました。

公共施設では、旧南小学校跡地に通称「おひさまパーク」がオープンしました。また、別府市立別府西中学校の開校、新しい市営亀川住宅も竣工しました。

イベント関係では「ワン・ベップ・ドリーム・アワード2021」や「マーチング・カーニバルin別府2021」の開催、そして、開催できなかった「べっぷ火の海まつり」と「べっぷクリスマスファンタジア」からエールを込めた「別府エール花火」を、11月20日から約1か月間にわたり毎週土曜日に打ち上げました。

特に、複数箇所から同時に打ち上げた12月25日には、市内の夜空をととても美しく彩り、一昨年を超える絶大なインパクトを与えてくれるなど、感動や楽しさや温かみのある素敵な思い出を残すことができました。

別府の新しい一年が始まります。

新型コロナ関係につきましては、新型コロナワクチン3回目の接種が始まります。接種の時期は、国からのワクチン供給にもよりますが、2回目接種の8か月後とされている時期より少しでも前倒しできるように努力してまいります。

ウィズコロナも3年目となります。これまでの経験から多くのことを学びました。今後も市民の皆様への心と身体の健康をしっかりと守りながら、重症化率などの客観的な数値をより冷静に分析し、対策をアップデートさせ、社会経済活動との真の両立が図れる体制づくり、環境づくりに取り組んでまいります。

観光面では、ポストコロナに向けて昨年から取り組んでいる「ユニバーサルツーリズム」、「観光DX（デジタルトランスフォーメーション）」、「免疫力日本一宣言の実現」、「食×観光」の4つの項目を柱に据え、市内のあらゆる団体の皆様と連携して、更に前進させます。

特に「免疫力日本一宣言の実現」については、現在、九州大学都市研究センター、別府市旅館ホテル組合連合会との協働により、別府の温泉に免疫力を高め、特定の病気のリスクを軽減させる効果があることを証明する取組を行っています。昨年末には「温泉には特定の病気のリスクを下げる効果がある」との中間報告が発表されました。温泉の効果を医学的に証明することにより、湯治客やワーケーションなど、長期滞在者の誘致につなげていきます。

重要なことは、観光は市民の皆様を幸せにするための手段であり、観光で得られた資金などを所得の向上、雇用の拡大、教育や福祉の充実など、市民の皆様が幸せを実感できるよう還元させることです。あらゆる団体や市民の皆様と共に、その仕組みづくりにも具体的に着手します。

産業面では、大分空港が「宇宙港」に選定されました。ビジネスの転換点を迎えるほどの大きなチャンスだと思っています。宇宙ビジネスと別府市の産業をどう結びつけていけるか、宇宙港によってどのように稼いでいけるかを研究します。そして、そこから進化させ、地元の皆様への雇用をしっかりと守り作っていくという「スペースバレー構想」と既存の「別府ツーリズムバレー構想」を掛け合わせて、新たなビジネスチャンスを見つけていきたいと考えています。

防災面では、「ひとまもり・まちまもり協議会」が市内7つ全ての地域で発足し、それぞれの地域で防災訓練やコロナ禍における避難所運営訓練が行われています。一番の災害対策は日ごろからの備えです。今年も、協議会を中心に自助・共助の強化を図りながら、備蓄倉庫の整備や備蓄品管理のIOT化、そして、だれ一人取り残さない「インクルーシブ防災」にも引き続き取り組みます。

福祉・教育面では、子どもの困りごとや、子どもを取り巻く環境をしっかりと見守りサポートしていけるよう、居場所づくりに取り組む関係団体とのネットワークを強化するための新しい協議会を設置します。貧困の連鎖を断ち切り、子どもたちが将来、様々な可能性を輝かせることができるような地域づくりに取り組みます。

重要課題の一つである新図書館整備事業につきましては、これまで、オープンプラットフォーム会議など様々な機会に新図書館の整備方針やコンセプトをお伝えし、また市民の皆様のご意見を聴いてまいりました。1月には、いよいよ設計事業者を選定します。地域のネットワークの中核となる重要な社会インフラとして、さらには一人一人の夢の実現を手助けする知の拠点として、令和7年度の開館に向けて大きな一歩を踏み出します。

これら重要課題の解決や施策の実現には、皆様との協働・連携が不可欠です。

「全ての施策の目的は市民の皆様の幸せのため」ということを共有しながら、2022年を「ポストコロナ元年」「コロナからの克服元年」と位置付け、持続可能で夢や希望を持てる素敵な別府を後世に引き継げるよう、取組を加速させてまいります。